

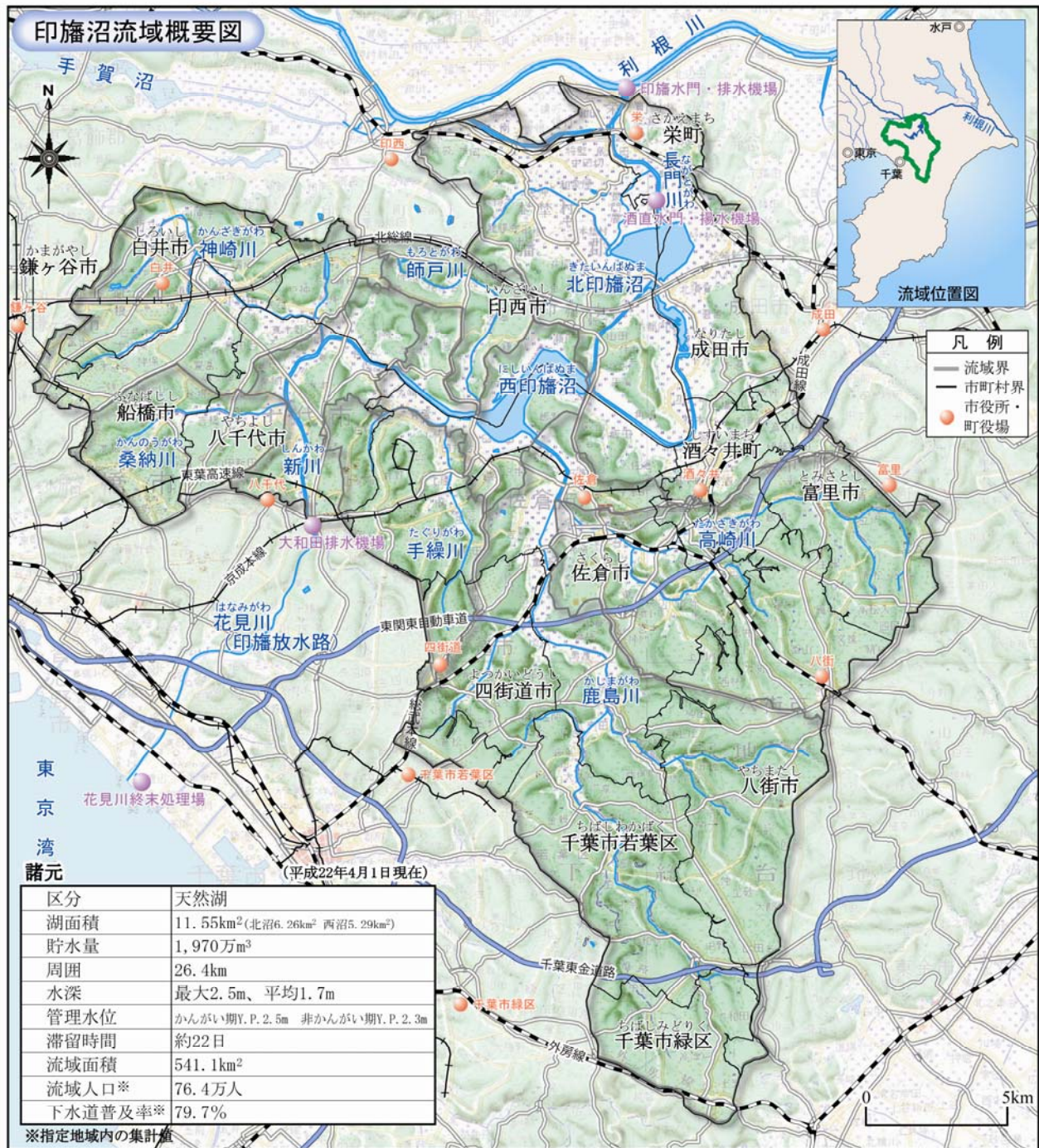
印旛沼流域水循環健全化会議

第18回委員会

本 編 資 料

平成22年10月27日

千 葉 県



環境基準

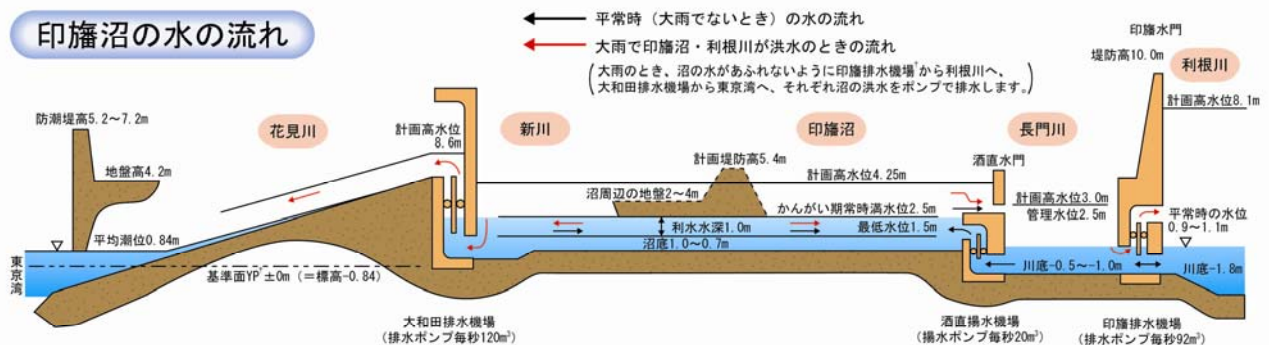
項目	類型	基準値	湖沼水質保全計画目標値※	平成21年度年平均値
COD	湖沼・A	3.0mg/l (75%値)	7.5mg/l 8.9mg/l※※	8.6mg/l 9.8mg/l※※
T-N	湖沼・III	0.4mg/l	2.7mg/l	2.7mg/l
T-P	湖沼・III	0.03mg/l	0.10mg/l	0.11mg/l

※第5期の目標値で、施策を講じた場合の平成22年度の年平均値
※※COD75%値

利水状況

項目	状況
上水	3,887万m ³ /年(平成21年度)
工業用水	6,536万m ³ /年(平成21年度)
農業用水	6,993万m ³ /年(平成21年度)
内水面漁業	156t/年(平成20年度、手賀沼を含む)

印旛沼の水の流れ



～ 目 次 ～

1. はじめに	1
1.1 会議の目的	1
1.2 印旛沼の 6 者連携	1
1.3 健全化会議の進め方	2
2. 第 17 回委員会での主な指摘事項に対する今後の対応方針	3
2.1 主な指摘と対応	3
2.2 議事要旨	4
3. 健全化会議の新たな取り組みに向けて	11
3.1 これまでの健全化会議の経緯	11
3.2 体制の再構築	13
3.3 水循環健全化に向けた取り組みのあり方	14
4. 今後のスケジュール	15

1. はじめに

1.1 会議の目的

会議は、印旛沼・流域の再生に向けて、2010年1月に策定された「印旛沼流域水循環健全化計画」および「第1期行動計画（案）」に従い、流域関係者の連携・協働のもとに着実に計画を推進する。（健全化会議規約より）

1.2 印旛沼の6者連携

印旛沼流域水循環健全化会議を中心に、住民や市民団体、企業、水利用者、行政等、印旛沼・流域の再生に関係する6者が連携して計画を推進する。

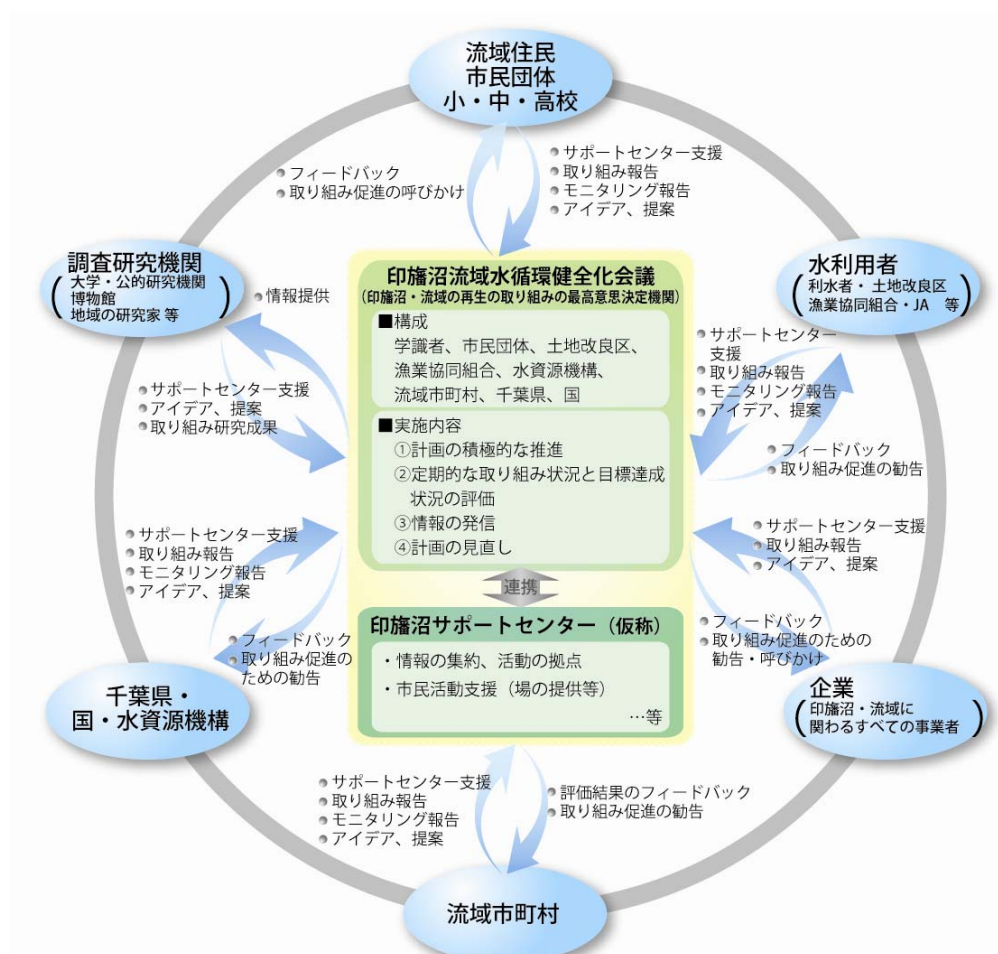


図 1 印旛沼の6者連携

1.3 健全化会議の進め方

2010（平成 22）年 1 月に策定された、「印旛沼流域水循環健全化計画」を踏まえ、以下の 4 点の通り、会議を進める。

- ① 健全化計画で掲げた取り組みの実施状況（取り組み指標）および目標達成状況の確認。また、行動計画の 101 の対策の実施状況については、数年に一度確認。
- ② 5 年毎に計画（目標達成状況や取り組み内容等）を点検し、必要に応じて計画を見直す。
- ③ 第 1 期行動計画（～2015（平成 27）年度）が終了する段階で、第 1 期の課題等を踏まえて第 2 期行動計画を決定する。
- ④ 印旛沼流域水循環健全化会議を継続的に開催し（1 回／年程度）、会議において①～③について評価・確認・討議する。

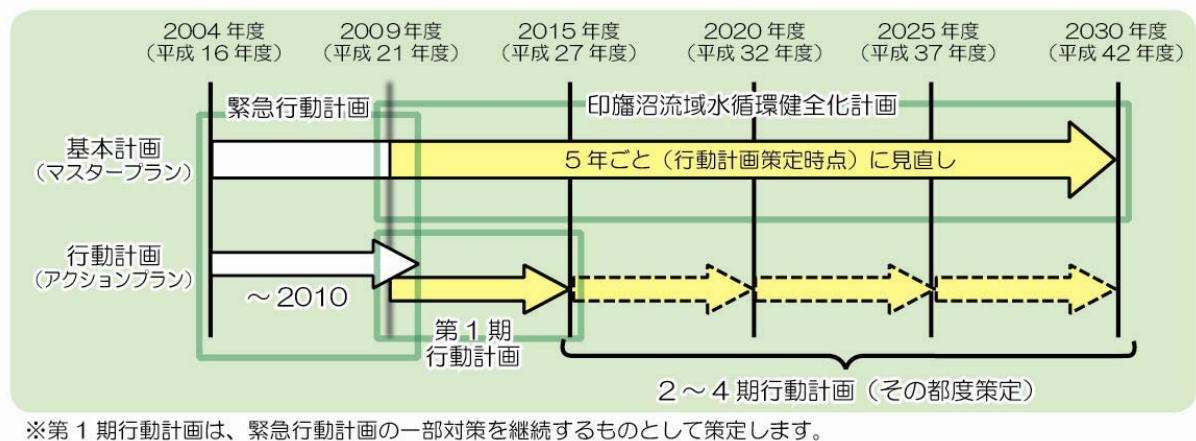


図 2 健全化計画（基本計画）と行動計画により取り組みを着実に推進

2. 第 17 回委員会での主な指摘事項に対する今後の対応方針

2.1 主な指摘と対応

前回委員会（平成 22 年 1 月 7 日）における、委員からの主な指摘と対応は下表の通り。
また、議事要旨を次ページ以降に示す。

表 1 第 17 回委員会での主な指摘と今後の対応

議事	No.	指摘	対応
(1) 前回委員会の指摘対応	1	(特になし)	—
(2) 健全化計画書案について	2	・長門川水道企業団では、昨年度（H20）の印旛沼水位変動実験の際に長門川の水質が悪化して、浄水処理の薬品量が増大などの被害が出た。我々が当初から計画や検討会に参加していれば違う結果もあったかもしれないと感じている。（長門川水道企業団 富山係長）	長門川水道企業団には、健全化会議委員会や印旛沼水質改善技術検討会の委員になっていただいた。密に情報交換、協議を行いながら、今後進めていきたい。
	3	・健全化計画案の承認を受けた。	—
(3) 第 1 期行動計画案について	4	・行動計画というのは、どのような改善をすればどのように変化していくのか、という実際の情報を盛り込んでいく必要がある。（虫明委員長）	WG 等により取り組みを進めながら、行動内容を充実させていきたい。
	5	・第 1 期行動計画案の承認を受けた。	—
(4) 各種取り組みについて	6	・計画は、住民の協力なしには進まない。NPO は住民と行政の架け橋である。そのような団体に対して、行政がもっとサポートすべきである。（本橋委員）	今回より委員として NPO の方を 2 名加わっていただいた。また、市民団体の方に今後どんな取り組みをやっていただき、それに対してどんな支援ができるのか検討する。
(5) その他	7	・関係のあるサイトにはホームページでリンクを貼り、興味のある人が情報をたどれるようにできるとよい。（虫明委員長）	印旛沼に関連するイベント開催等の情報も随時記載するなど、ホームページ(いんばぬま情報広場)を充実していく。また、関係機関・団体にリンクをお願いしていく。

2.2 議事要旨

日 時：2010 年 1 月 7 日（木） 13：30～17：00

場 所：Qiball 13 階第 1, 2, 3 会議室

1) 議事概要

A) 議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - (1) 前回委員会の指摘対応とスケジュール
 - (2) 健全化計画書案について
 - (3) 第 1 期行動計画案について
 - (4) 各種取り組みについて
 - 1) 市民団体からの活動報告
 - 2) 市町村みためしの報告
 - 3) わいわい会議 in しすいの開催報告
 - 4) 印旛沼連携プログラムについて
 - 5) 北千葉道路建設事務所の取り組み報告
 - (5) その他
4. 閉会

B) 配付資料

- 資料 1 議事次第等
- 資料 2 第 17 回委員会 本編資料
- 資料 3 印旛沼流域水循環健全化計画（案）
- 資料 4 第 1 期行動計画（案）
- 資料 5 パワーポイント資料
- 資料 6 対策把握調査結果
- 資料 7 その他資料
- （再生行動大会チラシ、川の健康診断マップ、水草マップ、連携プログラムパンフレット）
- 資料 8 ご意見記入シート



2) 議事要旨

A) 虫明委員長挨拶

- ・ 健全化計画を審議いただき、それを策定したい。
- ・ 行動計画の内容は、これから進化する、進歩するということを前提に、「案」をつけたまま策定したい。
- ・ 健全化会議は印旛沼に対する利害関係の異なる主体が集まっているため、調整しながら、win-win の関係になるように努めるものである。
- ・ 長門川水道企業団には、今後健全化会議の委員として加わっていただきたいと考えている。

B) 前回委員会の指摘対応とスケジュール

- ・ 指摘 No.3「エコ農業の推進」について、消費者を巻き込んでいくことは難しいが、豊岡市の事例から、コウノトリやトキは消費者の興味をひく際に有用であると考えられる。コウノトリ米の価格は3割増で、他地域から人が集まってくるため、経済効果は10億円とも言われている。今度豊岡に行きデータを収集する予定なので、消費者と結び付けていくためにそのデータを活用し、エコ農業の経済的なメリットを、健全化会議で検討していただきたい。（太田委員）
 - 行動計画に結びつく話であり、太田委員にもいろいろと仕掛けていただきたい。（虫明委員長）

C) 健全化計画書案について

- ・ 緊急行動計画の年次が「2003～2008 年度」、第1期行動計画の年次は「2009～2015 年度」と記載されているが、第1期行動計画は今日決定するため、それぞれ、「2003～2009 年度」「2010～2015 年度」ではないか。（堀田委員）
 - 今年度中の策定、計画期間の開始を目的としているため、現在の表記のまま承認いただきたい。（事務局 椿原主査）
 - 本会議で策定されたものが今年度から実施されるというのは考えにくい。基準年度が2008年というのを変える必要はないが、今年度策定、来年度実施が常識的ではないか。（虫明委員長）
 - 第1期行動計画の取り組み個票は、今年度の取り組みを記載しているため、策定時点から動き出しているというかたちにしたい。（事務局 椿原主査）
 - 結論は、委員長・事務局預かりとさせていただきます。（虫明委員長）
- ・ 長門川水道企業団が昨年度の水位変動実験の際に受けた被害金額（薬品量の増大など）は、1,459 万 5,000 円であった。我々が当初から計画や検討会に参加していれば違う結果もあったかもしれないと感じている。通常でも、満水時には印旛沼の水が長門川に流れこみ、濁度が上昇し、水処理に苦労している。千葉県に対し、被害が出た場合の補償、水質の改善を事前をお願いしていたが、実際の被害が出て補償体制が整っていなかったというのが現状である。P38 の図に「水位低下」という言葉が残っている。これを計画に載せるのであれば、補償や対応策をやっていただくことがなければ認めることはできない。（長門川水道企業団 富山係長）
 - 異存はない。P38 の図はあくまでも「イメージ図」である。水草再生には沼底に光を届かせることが重要で、その方法の一つとして記載している。「漁業や利水に影響が少ないよう、水位を低下・変動させる」という説明文をいれているように、十

分な配慮をする予定である。（事務局 林副主幹）

- 被害が出てしまったことについてはお詫びする。決して、被害をだしながら続けたいとは考えていない。今後、委員として参加していただき、了解を得ながらすすめていきたい。（虫明委員長）

- ・ 舟戸の水草園でも、水位低下の際に水が枯れてしまうという被害が生じたことがあった。その対策として、40 万かけて、水が漏れないよう保水工事を行った。（太田委員）
- ・ 本計画は長期計画で、今後、社会情勢によって大幅な見直しが行われる可能性もあるが、現段階で考える目標を書いているという理解のもと、この場で承認とさせていただきたい。（虫明委員長）
 - （異議なし）

D) 第 1 期行動計画案について

- ・ 本計画をまとめるにあたっては、平成 16 年から 5 年間、様々なかたちでみためしを行ってきた。流域対策は重要な要素であり、沼から流域を見るのではなく、流域から沼へ、という考え方が中心となるべきである。流域の 15 市町村の協力なしには、行動計画は絵に描いた餅になってしまう。具体的な目標を掲げ、全関係者に協力いただきたいという想いで、案を練ってきた。新しい観点でとりまとめた計画だと考えている。（堀田委員）
- ・ 印旛沼流域は、現在 15 市町村であるが、近いうちに市町村合併の予定がある。合併を受けて、行動計画で掲げている取り組みをとりやめる、ということになりかねない。どう取り扱っていくべきか考えていかなければならない。（本橋委員）
 - 現時点の行動計画は、印旛沼健全化の精神のもとに市町村の取り組みが挙げられているわけではなく、計画に関係のある取り組みを羅列しているだけである。もっと心が重要で、印旛沼に焦点をあて、その地域が誇りを取り戻し活性化するという精神を注入することが必要である。その作業の中で、市町村合併等を含め、様々な変化に対応していけばよい。そういった意味でも「（案）」は残すべきである。（虫明委員長）
- ・ P16 に「ちばエコ農業による耕作面積」の現状の数値について、水田・畑の内訳がわからない。（太田委員）
- ・ 三門氏がエコファーマー認定をうけている。米 1kg あたり 800 円という高値で販売しているが、その価格でないとコスト分をまかなうことができないそうだ。苦労して認定を受けても売り上げは伸びないとのことである。買い手がいなければ、ちばエコ農業による耕作面積は増やせない。事業性がないことが一番の課題である。消費者、流通者を巻き込むしくみを真剣に考えるべきである。（太田委員）
 - ご指摘の通りと認識している。生産面のみならず、消費や流通にも配慮した対策が必要であるということは数年前から認識しており、みためし農地系でも検討中である。水田か畑作か、作物や農家の規模も違うため、画一的な対策はなじまず、状況に応じて対応するきめ細かい対策を考える必要がある。消費者に生産者の実態を知ってもらうことや、エコ農産物のブランド化なども 1 つの方法として考えられる。今回、みためし農地系の委員としてグリーン・ブルーツーリズムなどを実践している方々にも委員に入っていただき、ともに検討を進めているところである。（事務局 山口副主幹）
 - 食育基本法が制定され、食育フォーラムには消費者、主婦が参加している。しかし、エコについてはあまり配慮されていない。主婦層に対し、食育・食農というアプローチの方法についても検討していきたい。（太田委員）

- ・ 5 行動計画案については、今後も折に触れて充実を図っていく。異議がなければ、承認とさせていただきます。（虫明委員長）
 - （異議なし）

E) 各種取り組みについて

a) 市民団体からの活動報告

- ・ 水質調査の分析排水はどのように処理しているのか。（本橋委員）
 - タンクにため、最終的には専門業者に頼んで処理する予定である。（美島委員）
- ・ クレソンを栽培しているようだが、その場所の水温はどの程度か。クレソンは 15 度以上になると急成長して花が咲くため、水質浄化のためにクレソンを使用するのは 10 度以下の冬場のはずである。（本橋委員）
 - いかだの会で栽培しているクレソンは、越冬して春先に芽がでてきている。（美島委員）
- ・ 淡水真珠養殖の事例は日本にどのくらいあるのか。（山田委員）
 - 池蝶貝は、牛久沼や琵琶湖などの事例がある。（美島委員）
 - 道頓堀ではオーナー会員制度をとっている。そのような市民連携は興味深い。日本で淡水真珠が自生しているのは北海道の天塩川だけである。淡水真珠に詳しい先生によると、クレオパトラがつけていたのは淡水真珠で、生産性の悪さから海の真珠にうつっていったとのことである。市民と連携し、河川・湖沼の水質浄化として淡水真珠を養殖することは、日本独特の世界に誇れる技術になりうる。（山田委員）
 - 埼玉県の前田競艇場では、1000 個程の池蝶貝を使って水質浄化に利用した事例がある。（美島委員）
- ・ 河川は富栄養化に悩み、その隣で農業は肥料をまいて生産性を挙げている。そのような中、いかだの会の取り組みは、富栄養化した水をうまく農業に利用するという視点である。農業としての今後の可能について、どのように考えているのか。（中村委員）
 - 印旛沼にない、今までにない産業が創出できると考えており、この農法を「湖上農法」という言葉を使い始めている。冬場はセリ、春から夏にかけては空心菜など、季節によって作物を変えている。これらを印旛沼流域の特産物として販売することで、いかだの会の管理費用を捻出できるといことも考えている。（美島委員）
- ・ 現時点で生業になっているのか。栽培した作物は出荷しているのか。（虫明委員長）
 - アルミの組み立て式が開発されてから、軽量で腐食もなく長く使用でき、市民が参加しやすい浄化設備ということで、各自治体が興味をもってくれている。ただ、環境学習を目的とした場合は農産物を差し上げており、イベント等でも使用している。以前は八街の間屋に運び、運営費を稼いでいたこともある。（美島委員）
 - 個人的に空心菜が好きで、タイのニンニクと唐辛子で炒めたものが美味である。クレソンはカンボジアのクレソンスープが美味である。好きな人もいるので、出荷して儲けるしくみとしてはどうか。（虫明委員長）

b) 市町村みためしの報告

- ・ 今後、「湧水調査」「合併浄化槽」など、テーマが同じ市町村同士が連携するような動きが出てくるとよい。（虫明委員長）
- ・ 千葉市の取り組みについて、調査した 38 の湧水箇所のうち、湧出していない場所の管理はしないのか。町場の湧水は、季節によって湧出量が変わるものである。（本橋委員）

- 湧出していなかった箇所も定期的に見回り、施策実施の成果が表れるかどうかを確認していきたい。（千葉市環境保全推進課 石井係長）
- ・ 行政主導ではなく、市民団体にある程度管理を任せたらいいのではないかなと思う。（本橋委員）
- ・ 千葉市が発表した BOD 値は改善されているが、行動計画書 P22 行動展開図に記載されている千葉市の市街地負荷量は大きい。整合性はとれているのか。（太田委員）
 - 行動計画における負荷量は、原単位に対して面積をかけて算出している。（事務局 千勝副主幹）
 - 千葉市が提示した BOD 値は、毎月定点で測定している値の年平均値を示しているため、行動計画の値と一致するとは限らない。（千葉市環境保全推進課 石井係長）
 - 行動展開図における市街地の負荷量は、主に降雨時に流出する負荷量を示している。千葉市提示の BOD や行動展開図に記載している COD の値は、平常時の水質を月 1 回測って平均した値なので、降雨時の値は反映されていない。市街地の負荷量は、雨天時の対策の必要性を示していると考えていただきたい。（事務局 上原）
- ・ 千葉市では湧水が入ってきている河川を中心に測定しているのか。（虫明委員長）
 - 市内の河川について代表的な地点で測定しており、鹿島川については、下流は下泉町、上流は下大和田町、平川町で、川の水をサンプリングしている。（千葉市環境保全推進課 石井係長）
 - どの湧水を測るかも重要である。大量に湧出している箇所もある。千葉市には湧水箇所を指示し、協働でやろうという提案をしている。どのように継続していくのか、互いに研究していきたい。（堀田委員）
- ・ 「行動計画というのは、千葉市が行っているような調査や、どのような改善をすればどのように変化していくのか、という実際の情報を盛り込んでいく必要がある。」（虫明委員長）
- ・ 湧水調査は市民が活発に実施しているので、連携して進めてほしい。その際は、生物多様性、環境、水神などの文化も引き継ぐような湧水保全をお願いしたい。（中村委員）
- ・ 富里市のとりくみについて、生活雑排水対策として高度処理型合併処理浄化槽の設置を進めていると発表していたが、生活雑排水の垂れ流しは、汲み取り式と単独処理浄化槽に対しての問題である。汲み取り式と単独処理浄化槽の利用家庭を対象としていると考えてよいのか。（本橋委員）
 - 富里市は単独浄化槽と汲み取りの人口が高く、「生活雑排水が未処理のまま流されている箇所について、高度処理型合併処理浄化槽を推進していく」という意味でこのような表現としている。（富里市環境課 矢口主査）
 - 正確には、「汲み取り式、単独処理浄化槽の設置宅に対し、合併処理浄化槽への転換を図る」という理解で相違ないか。（本橋委員）
 - そのとおりである。（富里市環境課 矢口主査）

c) わいわい会議 in しすいの開催報告

（意見は特になし）

d) 印旛沼連携プログラムについて

- ・ 印旛沼連携プログラムの実施要領の変更、及び登録団体のホームページでの広報という仕組みについて、NPO の方の意見を伺いたい。（虫明委員長）
 - 事前の打ち合わせがあり、自分も変更案作成に参加したため、賛成である。（美島

委員)

- 美島委員同様、賛成である。あとは、いかに実行するかということが重要である。
(金山氏)

- ・ 連携プログラム要領の変更、および登録団体のホームページでの広報という仕組みについて、現案の通り承認とさせていただきたい。(虫明委員長)
 - (異議なし)

e) 北千葉道路建設事務所の取り組み報告

- ・ 橋の完成後は、川の駅のような拠点をつくる構想があると聞いている。そのような関連情報は全て報告してほしい。(虫明委員長)
 - まだ決定事項ではないため、発言は控えたい。(北千葉道路事務所 渡邊所長)
 - そういう縦割りの姿勢はよくない。外部からは印旛沼全体で動いているという見方をしているので、地域としてどう受け止められるか、という視点をもっていただきたい。各々がつながっている方が、地元にとってはわかりやすいと思う。(虫明委員長)

f) その他

- ・ 普通、「印旛沼流域に住んでいる」という感覚を持っている人は少ない。最近、川の駅構想というものがあるが、ハコモノをつくらなくても、川や沼の近くに住む人が「うちは川の駅だ」と言ってしまうといい。そこに行けば資料が置いてあり、川や沼の話を聞いて情報収集できる、というしくみであれば資金は不要である。(山田委員)
- ・ 水循環健全化といっても、印旛沼の水をきれいにするだけが目的ではない。水辺を活かしたまちづくりという視点が重要である。堀田委員たちが、来年の「川での福祉と教育の全国大会」を誘致している。水循環だけでなく、他の視点をもって対応して行くことが必要である。(虫明委員長)
 - 水質浄化、水辺の環境だけでなく、福祉や医療に視点を広げていく。健常者だけでなく、あらゆる人たちに開かれた沼の姿を考えていきたい。(堀田委員)
- ・ 印旛沼の文化、経済圏を立ち上げて、商品化していく必要がある。そこで、印旛沼流域の懇談会を立ち上げ、川の駅構想を含め動き始めている。機会があれば発表させていただきたい。(太田委員)
 - 健全化会議の中ですべて行うということではなく、目指す方向性は同じものを持ちつつ、各自積極的に進めていただければと考える。(虫明委員長)
- ・ 今後、川にかけられる予算は減っていく傾向で、どのように資金を得るかが重要となってくる。水の安全保障戦略機構という組織の中で、バラスト水チームが研究を進めている。例えば、京葉工業地帯にアラブのタンカーが原油や鉄鉱石を積んできて、荷を降ろすと船が浮くので、今は海水を積んで帰っている。例えば 50 万 t タンカーだと 10 万 t 以上の海水を積んで帰り、帰国後、アラブの海に日本の海水をばらまく。これが環境破壊だと言われている。そこで、タンカーが帰国の際に積む水を、海水でなく淡水とすることで、環境破壊を防ぎ、商売にもなるのではないか、ということである。研究チームは、淡水を積ませてくれる場所を探している。水利権の目的外使用など、法的な問題を解決する必要はでてくるが、印旛沼の水位低下の際の余剰水を、ただ流すだけではなく販売することはできないか。ビジネスとして利益を得られれば、その一部を印旛沼の環境保全や活動資金として活用することができる。将来の課題として、県に検討していただきたい。(山田委員)

- ・ 6.計画書など、住民の協力なしには進まない。しかし、NPO に若い人の参加が少ない。NPO は住民と行政の架け橋である。そのような団体に対して、行政がもっとサポートすべきである。（本橋委員）
 - みためし学び系や子ども会議などの取り組みでは、若い人（子どもたちの兄姉、地域のボーイスカウト、父兄など）の活動も進めている。（堀田委員）
 - 今後、若い地元の研究者に参加いただく予定もある。（虫明委員長）

F) その他

- ・ 配付資料 6 の施策進捗調査表については、後ほど各自確認いただきたい。（事務局 椿原主査）
- ・ 2月4日の再生行動大会では、長期計画を発表したいと考えている。また、流域15市町村ご登壇の上で承認式のようなことを実施する予定である。是非参加いただきたい。（事務局 林副主幹）
- ・ 印旛沼サポートセンターについては、これまでワーキングの中で1年程度議論し、課題も明らかになってきている。今年から立ち上げに向けた行動を起こしていく予定である。随時報告させていただく。（事務局 林副主幹）
- ・ 去る10月31日から11月4日まで、世界湖沼会議に参加した。印旛沼の事例を3事例ほど発表し、かなり関心を持っていただけたという感触をもっている。今後、機会をみてご報告させていただく。（事務局 林副主幹）
- ・ 笠井先生の記念事業の一環として、大場先生の講演「千葉県の水草 過去・現在・未来」を、1月21日、14時～16時、佐倉ミレニアムセンターにて開催する。今日資料を配付できなかったなので、メール等で広報いただきたい。（太田委員）
 - ホームページでの公開、メール配信等、方法は太田氏と相談の上、広報していただきたい。（虫明委員長）
- ・ 印旛沼環境基金では、2月6日1時半から、八千代台文化センターにていんば沼フォーラムを開催する。「いんば沼、大丈夫か」をテーマに、生き物からみた印旛沼についての話を取り上げる。参加いただきたい。（本橋委員）
 - 7.関係のあるサイトにはホームページでリンクを貼り、いろいろな情報がつながるようにしてはどうか。興味のある人が情報をたどれるようにできるとよい。（虫明委員長）

－ 以上 －

3. 健全化会議の新たな取り組みに向けて

3.1 これまでの健全化会議の経緯

印旛沼・流域での様々な課題を解決するため、平成 13 年に健全化会議が設立された。以降、約 10 年をかけ、平成 22 年 1 月に「印旛沼流域水循環健全化計画」「第 1 期行動計画（案）」を策定し、今後は実践・行動する期間である。

平成 16 年 2 月に、できることから始める「緊急行動計画」を策定し、みためし行動やわいわい会議等を行ってきた。住民や市民団体、専門家、行政等の関係機関が連携・協働で、様々な地域、様々な行動に取り組んできた。

今後は、「印旛沼流域水循環健全化計画」に従い、これまでの成果を生かした「実践・行動」の期間とし、平成 42 年度の「印旛沼・流域再生」を目指していく。

印旛沼流域水循環健全化会議のあゆみ

発行：印旛沼流域水循環健全化会議 事務局
発行日：2010年10月
問い合わせ先：千葉県国土整備部河川環境課
TEL 043-223-3155、FAX 043-221-1950

印旛沼の課題

水質改善
治水対策
等



アオコの発生



埋め立てられた谷津



外来種



湧水の涸渇

緊急行動計画策定期間

行動計画みためし期間／健全化計画策定期間

再生に向けた実践行動期間

2030年

将来目標

印旛沼・流域再生
「恵みの沼をふたたび」

生き活きた魅力ある地域づくり

「流域水循環健全化」の最終ゴールは、「地域の福祉と安全」の向上

地域の再生、
活力と誇りのある
地域づくり

洪水に対する安全

水環境の保全・回復

「印旛沼再生宣言」
流域の決意！

2001年10月 2004年2月

印旛沼流域水循環健全化会議 設立

印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画 策定



主な取り組み

みためし行動

(モデル地域で試行的に実施し、その効果を評価し、内容を修正しながら流域全体へ広げていく方法)



9つのみためし行動の実践



印旛沼わいわい会議

(住民と行政の意見交換の場)



印旛沼再生行動大会 流域環境フェア

(取り組みを広く住民に
知ってもらうための場)



第1期行動計画(案)
印旛沼流域水循環健全化計画

策定

2010年1月 2010年2月

流域首長が再生行動大会にて
「印旛沼再生宣言」に署名



植生帯整備

北須賀工区 ※一部、道路事業 (ミティゲーション)

大竹工区 ※道路事業 (ミティゲーション)

八代工区

八代工区

甚兵衛大橋工区

外来生物防除

ナガエツルノゲイトウ

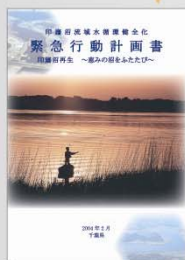
ナガエツルノゲイトウ

ナガエツルノゲイトウ

ナガエツルノゲイトウ オニビシ

(発行物)

印旛沼流域水循環健全化
緊急行動計画書

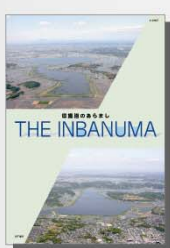


2010年を目途に、
すぐできる対策を
とりまとめた計画

印旛沼ってどんな沼



THE INBANUMA



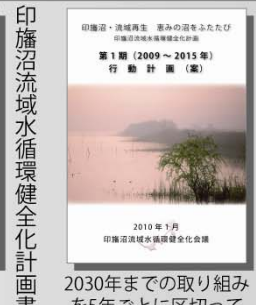
みんなの力で印旛沼を
再生しよう！



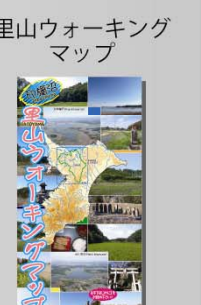
みんなの手で
いきいき印旛沼！



～印旛沼流域環境マップ～

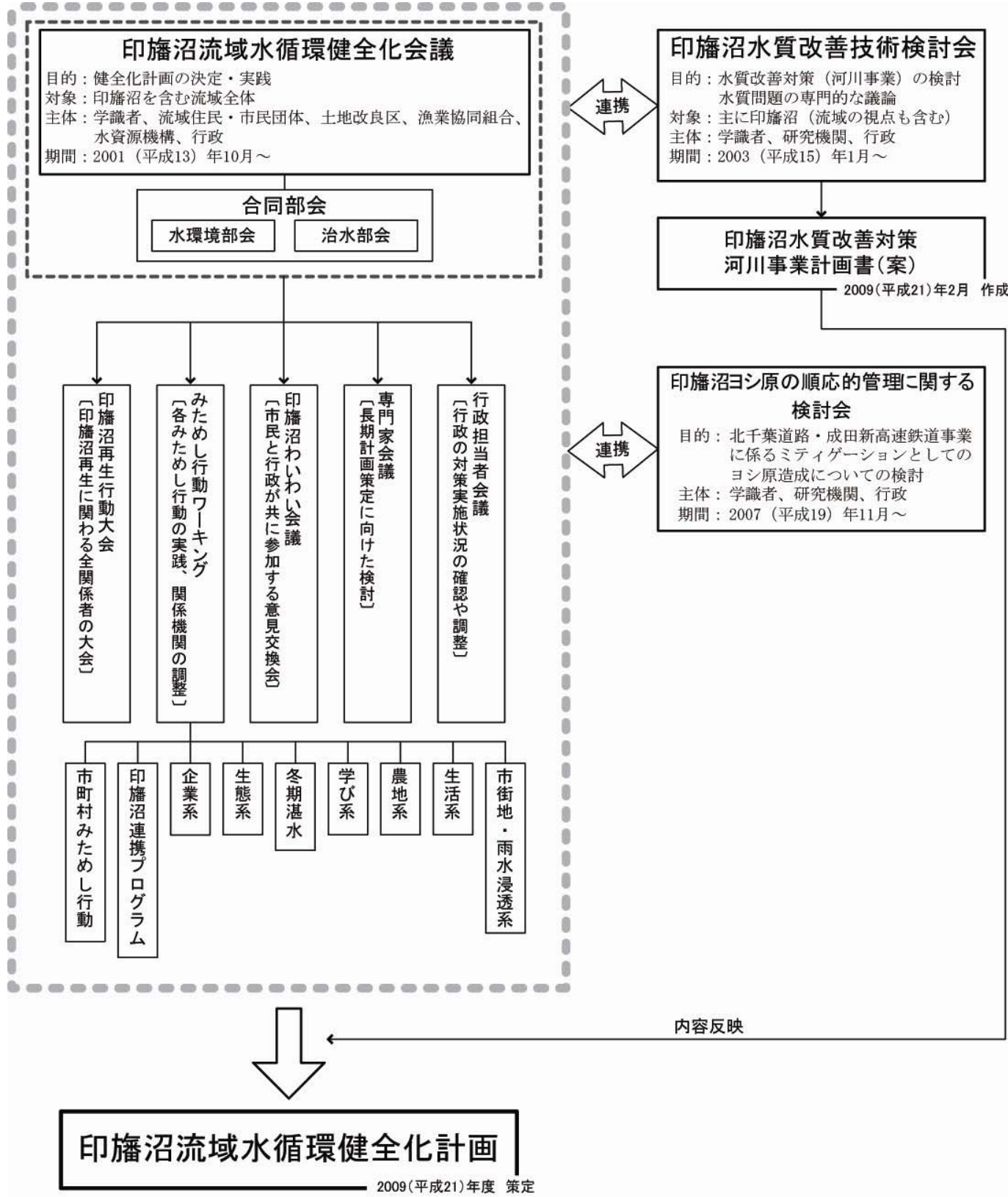


第1期
行動計画(案)
(2009～2015年)

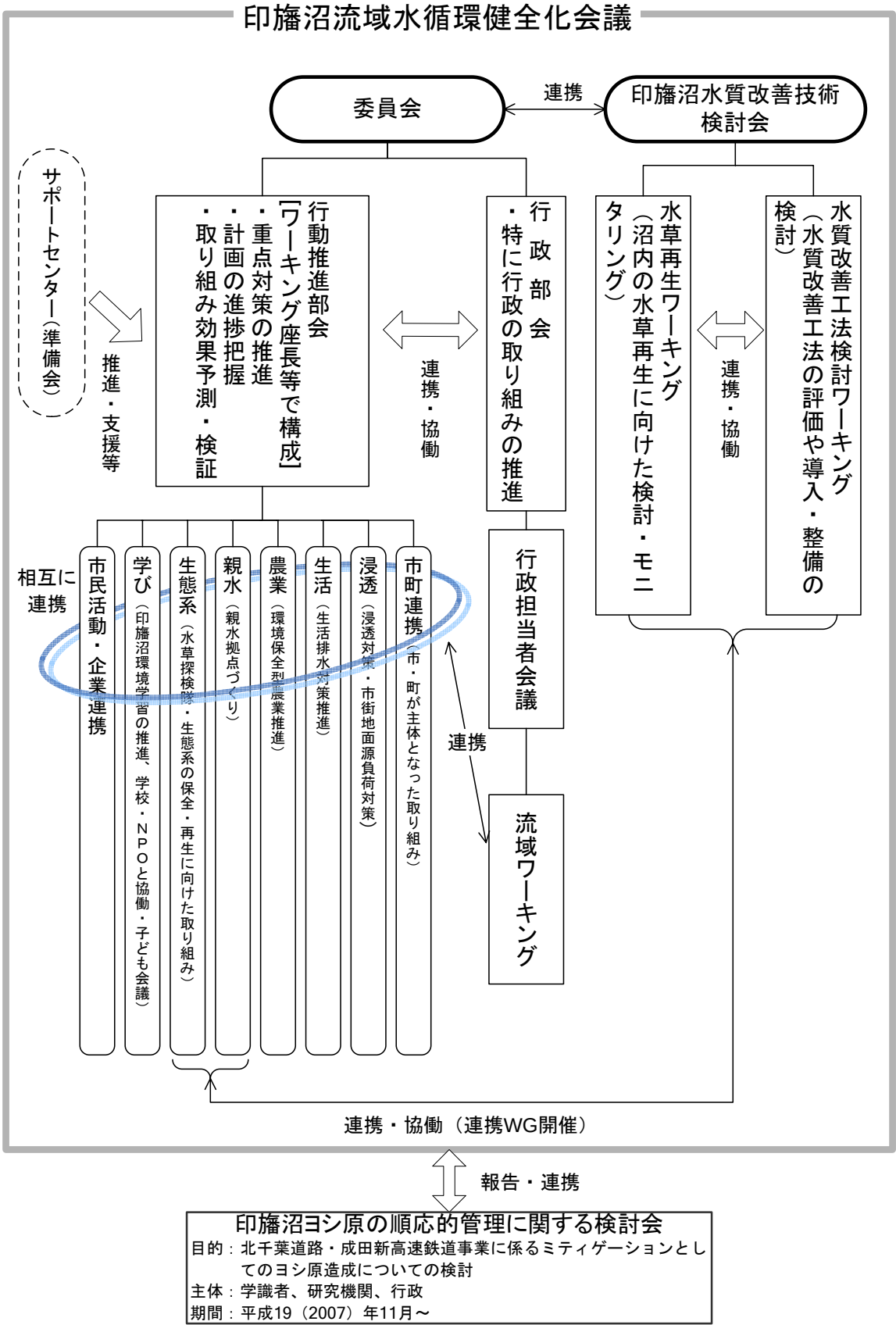


3.2 体制の再構築

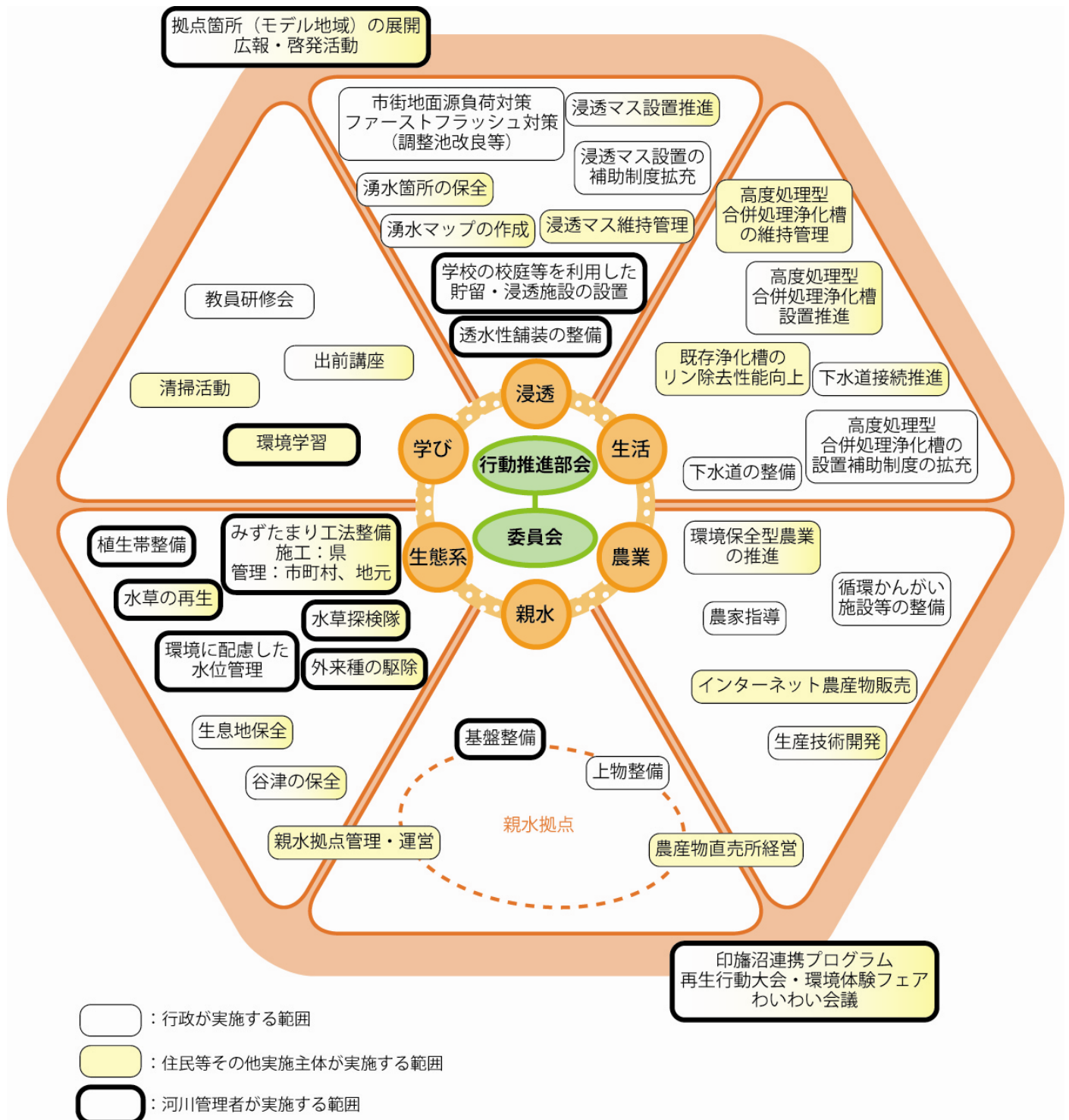
緊急行動計画の実施期間（これまで）



健全化計画策定後（これから）



3.3 水循環健全化に向けた取り組みのあり方



4. 今後のスケジュール

No.	行動	目的・内容	H21年度	委員長・部会長・座長(案)	第1期行動計画期間															H28～ (第2・3・4期)		
					H22年度												H23～27年度					
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
1	委員会	健全化会議の取り組みの最高意思決定機関	16th. 9/1617th. 1/7	虫明委員長	計画の推進・進捗管理 新委員：千賀先生(農工大)、近藤先生(千葉大)、小倉室長(環境研究センター)、金親氏、横山氏、印旛沼二期農業水利事業所、長門川水道企業団												18th. 10/27	継続				
2	行動推進部会	重点対策の推進 計画の進捗把握 取り組み効果予測・検証	(専門家会議) 166/10179/21811/171912/2	堀田委員	各WG座長および近藤先生(千葉大)、小倉室長で構成 座長ヒアリング 新体制・今後の展開の協議												会議 10/21	112月頃	各WGを経た後、全体で集まり議論	123月頃	継続	
3	行政部会	行政の取り組みの進捗管理	(合同部会) 19/8212/21	水質保全課長	委員会開催前に実施												110/18		継続			
4	行政担当者会議	対策の進捗管理調査 市町村みためし 等	14/1325/15311/27	(河川環境課長)	随時実施(対策実施状況の把握等) 市町村みためしの実施												1111月頃		継続			
5-1	重点対策群の実践	市町村みためし(流域系)	市町村が主体となり、小流域単位で連携した取り組み実践	(市町村みためし)	流域WGの立ち上げに向けた展開 流域単位での取り組みを意識し、市町村みためしを充実 市町村みためし行動メニュー表から選択、各WGへの参加 等														(随時開催)	「流域ワーキング」への展開		
5-2		浸透	浸透対策の普及 市街地面源負荷対策の実践	18WG 9/119WG 3/11	東京理科大学二瓶准教授	加賀清水・調整池改良モニタリング 浸透対策・調整池改良の流域展開 浸透対策普及・制度化検討(条例化等)、業者・NPOとの協働												1111月頃		22月頃		
5-3		生活	生活排水対策	4WG 2/245WG 3/10	浄化槽検査センター千代事務局長	下水道・農集排・浄化槽の関係課との協議継続 浄化槽でのリン除去機能向上の調査研究 企業(浄化槽メーカー、清掃点検業者)との連携												1111月頃		21月頃		
5-4		農業	環境保全型農業の推進	15WG 10/1316WG 3/4	JA富里市仲野常務	流域展開：施肥適正化、流通・消費との連携検討等 (JA、農林部局等が主体)												1111月頃		22月頃		
5-5		親水	親水拠点づくり	(新規)		親水拠点の整備に向けた検討・関係者との協議 虫明委員長による市・町長ヒアリングによる印旛沼へのニーズ把握 (成田市、佐倉市、印西市、酒々井町、栄町)																
5-6		生態系	水草探検隊の実施 水草再生にむけた取り組み	5神崎川 8/6	東邦大学長谷川教授	水草探検隊の実施 水草の再生・維持の取り組み 外来種問題、竹林等の課題解決												1111月頃		22月頃		
5-7		学び	印旛沼環境学習の推進、学校・NPOと協働)、子ども会議	教員研修会 7/2811WG 9/311WG 3/11	堀田委員	モデル校(3校)での出前講座(専門家・NPO等を講師として) 白井第一小学校 酒々井小学校 佐倉東中学校												1111月頃		21月頃	出前講座メニュー更新 手引きの改訂	
5-8	市民活動・企業連携	企業連携	(新技術(貯留浸透)のモニタリング)	—	企業と連携し具体的に実践(環境フェアやわいわい会議、連携プログラム等での連携)																	
5-9		連携プログラム	印旛沼連携プログラムの推進		登録団体の増加に向けた取り組み・呼びかけ																	
5-10		わいわい会議(名称変更検討)	点から面への活動 住民・行政が一緒になった実践の場へ変更、協働・連携	8酒々井町 10/17		(印旛沼全NPO団体と話し合い)今後の活動内容の検討 例として、活動カテゴリー分けして点から面への活動促進(101項目のうちNPOが実施可能な業務を委託。公募で可能か検討)												910月8日～10日	(今年度は「川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会inちば(みんなで活動！印旛沼・流域再生)」として併催)			
6	(仮称)サポートセンター検討	行動支援の仕組みの検討	1WG 2/172WG 3/11		サポセンのしくみを検討、関係者(市民・NPO等)との議論																	
7	健全化計画策定検討	計画策定・見直しに関わる検討			(今年度はなし)														必要に応じて健全化計画見直し 第2期行動計画策定	第3.4期策定		
8	モニタリング・進捗管理	9つの指標を把握するための水量・水質調査 市民参加型モニタリング実施			モニタリング計画に従って実施(流域河川流量・水質、見透視度、アオコ、利用人数 等) 対策実施状況・目標達成状況の整理																	
9	印旛沼再生行動大会	取り組みの情報発信の場	72/4		(今年度はなし)														(計画見直し、次期行動計画策定時に開催を検討)			
10	印旛沼環境・体験フェア	イベントを兼ねた、広く一般への取り組みの情報発信の場 子どもまで参加可能として開催	52/7		環境・体験フェア 8/28 印旛沼環境団体連合会と共催し、夏休み中に開催(印旛沼・水辺での体験を入れる)																	
11	印旛沼水質改善技術検討会	水質改善対策(河川事業)の検討 水質問題の専門的な議論	143/18	虫明座長	(未定)																	
12	流域の関連イベント	流域内の関連イベントとの連携			佐倉市花火大会 8/7臼井ふるさと祭 8/21佐倉秋祭り 10/8～10コスモス祭 10/8～12NARITA花火大会 10/16ユークリフェスタ 10/30～31																	
(参考)	千葉県議会				5/286/228/279/1711/2412/172/103/11																	

印旛沼・流域の再生(H42目標)